

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		10 03 05	中期総合計画主要施策番号		1-02	担当課	部・課	林務部 森林づくり推進課	
事業名		松林健全化推進事業					内線	3257	
							E-mail	shinrin@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	防災や信州の原風景の保全上、重要な役割を果たしているアカマツ林を保全するとともに、山村の貴重な収入源であるマツタケ等の林産物生産の確保を図る。							
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 昭和56年度に発生した松くい虫被害(マツ材線虫病)が県下に広がり、毎年5万㎡程度の枯損被害が生じている。							
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 松くい虫被害からマツを守るための決定的な防除手段がなく、防除手段として農薬を用いる方法が多いが、環境や健康に対する配慮から使用が制限されている。							
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 既存の防除手段を有効に組み合わせ、被害区域の拡大防止と、守るべきマツ林を維持するとともに、新たな防除手段を構築する必要がある。							
	事業内容	・市町村が実施する被害の感染源となる被害木の伐倒駆除や感染防止のための薬剤散布や樹幹注入に対し補助する。 (補助率: [国] 2/4 [県] 1/4 [市町村] 1/4又は [県] 3/5 [市町村] 2/5) ・防除の新技术に関する調査研究を実施する。							
実施期間	S56 ~	根拠法令等	森林病虫害等防除事業補助金交付要綱、要領						
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	被害区域の拡大を防止し、被害量を沈静化させる。		平成20年度の被害区域面積を、平成19年度の19,144ha以下に抑えるとともに、被害量を平成19年度の50,438㎡以下に抑える。			被害面積は13,230haと前年度以下に抑えられたが、被害量は63,640㎡となり、前年度より拡大した。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	236,447	218,643	220,021	国庫・県単	国庫・県単	
	決 算 額 (B)		千円	236,447	218,643		実施方法	直接、補助	
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	144,646	130,200	120,994	歳出節別内訳等	旅費:140 需用費:20 負担金:84 補助金:218,399	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	3.70	3.70	3.70	(単位: 千円)		
	概算人件費 (C)		千円	26,418	26,451	26,451			
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	262,865	245,094	246,472				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	被害木の伐倒駆除		㎡	15,411	13,654	14,080	防除の新技术として、弱毒性のセンチュウを健全なクロマツに摂取し、マツノザイセンチュウに対する抵抗性の発現について経過を観察するとともに、マツノマダラカミキリの天敵であるキツツキ類を誘致するための巣箱を設置した。		
	薬剤の予防散布		ha	485	525	509			
	樹幹注入		本	500	400	400			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・現状の防除手段として、伐倒駆除、薬剤散布、樹幹注入、樹種転換を組み合わせ実施している。 ・被害対策の有効性を高めるために更に市町村と連携して取り組む必要がある。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
課題の総括		・地形やマツ林の分布、風向(カミキリ虫の移動方向)等を勘案し、現行の防除手段を有機的に組み合わせた「総合防除」の考え方により、低コストで有効な対策を構築する必要がある。 ・新たに有効かつ低コストで環境に負荷が少ない防除手段を早急に開発する必要がある。 ・被害対策の有効性を高めるために更に市町村と連携して取り組む必要がある。							